

きゅうこめたにけじゅうたくおもや  
旧米谷家住宅主屋

種 別 国登録有形文化財 建造物  
登録年月日 令和3年10月14日  
所 在 地 小松市花坂町

旧米谷家住宅は現在小松市東部国道8号線バイパス脇の「憩いの森公園」内に移築整備された茅葺き民家である。かつて日本海海運で知られる「北前船」交易で隆盛を極めた廻船問屋の家屋で、<sup>かけはしがわ</sup>梯川河口の安宅町に建っていた。

正面は東を向いており、寄棟造り、茅葺き、平入りの木造平屋建て建物である。屋根の主体部は<sup>はりま</sup>梁間三間、<sup>けたゆき</sup>桁行六間を寄棟とし正面半間を付け降ろし、正背面と南側面に半間で<sup>かきいたぶ</sup>厚柿板葺きの下屋を設けている。

文政5年以後の再建と考えられる。昭和62年（1987）に移築整備され、建物の変遷を調査し、建立当初（文政5年直後）を復原の時代設定とし整備されたと考える。

米谷家は安宅町で「北前船」の廻船問屋として繁栄し、時代が海運から陸運へと変わっても七代半平は旧米谷銀行を創業、のちに北國銀行初代頭取に就任するなど安宅の経済の繁栄を支えた。その当初の姿を見ることが出来るだけでなく、典型的な加賀地方広間型民家の間取りを示す、貴重な建物である。



旧米谷家住宅主屋 外観



旧米谷家住宅主屋 内観 オエの間